
岐阜県立岐阜商業高等学校

校 長 村上 宏俊
学校住所 岐阜市則武新屋敷1816-6 電話 058-231-6161

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜商業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和7年6月17日 (火) 10:00~11:45
- 3 開催場所 岐阜商業高等学校 校長室
- 4 参加者

会 長	川島 政樹	カワボウ株式会社	代表取締役社長
副 会 長	大友 克之	朝日大学	学長
委 員	和田 直也	岐阜市議会議員 (欠席)	
	大野 裕美	早田公民館	元館長
	関口 茜	全日制PTA特別活動委員長	
	藤井 彰子	定時制育友会副会長	
学 校 側	村上 宏俊	校長	
	奈波 宏和	副校長	
	清水 尚	事務部長	
	下平 昌子	教頭	
	水谷 貴郎	教頭	
	後藤 敦史	教務部長	
	石川 勝久	商業教育推進部長	
	糸井 統	生徒指導部長	
	大池 須美子	進路指導部長	
	黒田 匠馬	特別活動部長	

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 学校長挨拶
 - ・学校運営の方針と重点について
 - ・スクールミッション、スクールポリシーの具体的実践について
- (2) 教育指導の重点及び学校運営計画について
- (3) 学校全般について
- (4) その他

【全日制】

意見1：何が正しいか予測困難な時代である。Chat GPT 等の生成 AI は積極的に活用すべきと考える。ただし、情報の真贋を見極める基礎能力が不可欠である。例えば英単語帳の作成や試験の採点といった定型的な業務は AI に任せ、人間は、AI では出来ない業務に集中すべきである。一方で、詰め込み教育を否定せず、読み書き・そろばんといった基礎訓練の価値を再認識し、基礎学力の定着を図ることも重要である。さらに、学んだことをどうアウトプットさせるか、が求められている。

- 意見 2 : 部活動について。課外活動ではなく「課内活動」として位置づけることを検討してはどうか。部活動指導員を学内で活用するなど開かれた学校にすることで、教員の負担を軽減しつつ、安全な部活動を維持できないか。部活動は、座学だけでは学べない多くのことを学ぶ機会がある。安易に学校教育から切り離すべきではない。検定試験対策の学習と部活動の両立は常に課題だが、どちらかでも成功体験が得られれば良いのではないか。無理に両立を強いる必要はないと考える。
- 意見 3 : 少子化が進行する中で、現行の入学定員を維持するなら学力層の二極化は避けられない。下位層への人的手当やサポート体制を整えるか、あるいは入学定員を絞り、生徒の質を高める方向性も検討すべきと考える。
- 意見 4 : かつての「働き手供給」から、会社や地域を「継ぐ人材」の育成へと企業の期待が変化している。
- 意見 5 : 失敗経験の不足が若者の課題である。失敗から立ち直る力を育むことが重要である。家庭・学校・企業で、適切な負荷をかけながら、失敗と成功を繰り返させることが心を鍛えることに繋がる。現在、企業が抱える問題は、早期離職に加え、メンタルの不調や仕事への適応困難を理由とする早期「休職」が新たな問題となっている。
- 意見 6 : 都市部への人材流出に対し、無理な引き留めではなく、将来的な貢献（経済的、文化的、Uターン等）を期待したい。愛郷心の基礎は、良い家庭、良い町、良い学校体験の積み重ねである。本校のユニークさと愛校心を育む歴史を大切にすることが、結果としてふるさと教育に繋がる。
- 意見 7 : AI への指示（問い）がアウトプットの質を左右する。問いを立てる能力、言語でやり取りするコミュニケーション能力はAI 時代でも不可欠である。
- 意見 8 : 学校外では生徒からの挨拶が減っている印象である。ふるさとまちづくり協議会等で、地域の祭事等に子供たちの参加を呼びかけている。地域には古い意識も残存している。子供たちが安心して暮らせる社会づくりの重要性を感じる。かつてのような教員と生徒、家庭の密な関係性が失われつつあるのではないか。
- 意見 9 : 生徒たちは、ハードな部活動と検定学習で疲弊している。検定試験の受験については、全員一律ではなく、生徒が目標とする検定に絞って集中的に取り組めるようにできないか。新しい環境への適応やプレッシャーによる心身の不調をきたした時期もあった。部で受けたメンタルトレーニングで「失敗の上に成功がある」という考え方を学んだ。失敗から学ぶ姿勢を育んでほしい。

【定時制】

- 意見 10 : 大変さを理解しつつ、自分のペースで検定に挑戦するようになった子供の成長を評価している。早期休職や退職代行などの現状に寂しさを感じる。学校での経験を活かして強く生きてほしい。
- 意見 11 : 子供だけでなく、若い世代全般に挨拶や自発的なコミュニケーションが少ないと感じる。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、委員の皆様から種々の意見交換が行われたうえで、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。企業、大学、地域、PTAなど様々な分野から多岐にわたるご提言やご助言をいただき、今後の学校教育を運営するにあたり、大変参考となった。今年度の学校経営に活かしていきたい。